

多世代交流の里

すなまち

よっちゃん家だより

2020年
1月

発行者 委員長 吉野義道
江東区東砂7-9-13
電話03-3644-9264
広報部 杉浦正年

賀正



『談話室』英国病

平成二十九年の江東区の高齢化率（65歳以上）は（21%）で10人に2人が高齢者となります。全国平均は（29%）です。人生百年時代と言われますが、年金生活者にとっては医療費を含めて生活費（消費税）の負担は長生きしても明るい将来とは思えません。

令和二年度の国家予算が発表されました百二兆円、歳出では子育て世代や高齢者に関する強い社会保障費は三十五兆八千六百億円。なんと歳出の三分の一以上使われているんですね。ちなみに防衛費は五兆三千二百億円です問題は歳入（収入）です、赤字なんです。国債買ってもらいます、その額二十三兆五千億円歳入の四分の一が借金で成り立っています。日本国の台所事情です。「少子化」子どもが少なくなる事ですよね、原因として非婚化・晩婚化・教育費用の負担が挙げられています。その背景には不況や育児と仕事の両立の難しさや考えられます育児放棄・虐待が増える訳です。若い人の中には希望がもてないと話す人もいます。「高齢化」戦後の日本を支えてきた高齢者、西暦（25年）問題を「ご存知でしょうか？団塊世代が後期高齢者になるのです。なんと四人に一人が七十五歳以上になり日本は超高齢化社会を迎えます。社会保障制度の崩壊が問題視されています。

戦後のイギリスで「ゆりかごから墓場まで」と言う社会福祉政策が労働党の政策として確立、国民健康サービス法・企業の国有化等があります。結果西暦（60）年代になると国際競争力が落ち社会経済は停滞し社会保障費の負担、国民の労働意欲減退、既得権益の発生となりました。結果「英国病」と揶揄されました。

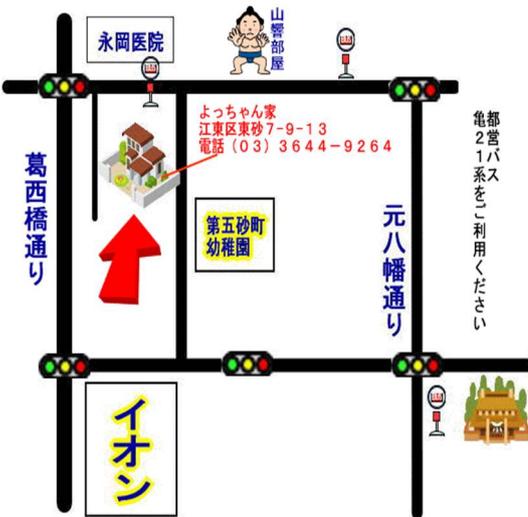
イギリスで初の女性首相サッチャー政権が誕生しました、首相の政策として小さな政府を掲げ社会経済の低迷から国を立ち直らせた。しばしば強権的な政治手法をとり「鉄の女」と呼ばれた。日本は大丈夫ですか



ご近所ミニデイよっちゃん家がオープンして三回開催されました。利用者は延べ十名となります、軽い運動・歌・脳トレ・昼食・ビンゴゲームを楽しみました。元氣な近所のおばあちゃん、名古屋から東砂へ引越しをされ知り合いもない東砂でよっちゃん家を知り以前から利用していると言う。よっちゃん家はみんなの居場所として誕生しました、イベントも増えそれぞれに楽しみ方があるようです。



初日の様子



Kotocommu.net



よっちゃん家
← こちらから

あけましておめでとございます
開所当時思い描いていた事は地域の人が集う場所、憩いの場所でありました。いつ日か自主活動団体の活動拠点となりました。全国には様々な福祉活動をされている団体があります。形態は個人もあればNPO法人もあるでしょう、私は向こう三軒両隣で支え合う古き良き時代のお互い様精神を実践したいのです。スタッフは決して無理をしない自然体で奉仕活動に努めています
午前十時半から午後四時まで接待をしてイベントに参加して交流を深めるスタイルです。

委員長 吉野 義道



【イベント予告】
よっちゃん家シアター 新春・特別企画
一月六日（月曜日）午後二時～三時三十分
「モンスタース・インク」上映
お問い合わせ 090-6569-7502
しずく
第十回 落語会 出演者 三遊亭楽大
一月二十日（月曜日）午後一時～二時
お問い合わせ 03-3644-9264
吉野